



ほだ木にシイタケの菌を打ち込む参加者。「いっころ食べられるの」と子どもたち

ワークショップ新学期 雪残る上外川に大歓声

岩手子ども環境研究所（吉成信夫代表）と町教委主催の「遊びと学びの子どもワークショップ」が、開設5年目を迎えました。

今年1回目のワークショップは4月15日、上外川地区の「森と風のがっこう」で開かれました。本町や岩手町から参加した児童38人は、所々に雪が残る校庭で大学生ら運営スタッフとともに、ゲームを楽しみました。午後は、ほだ木100本にシイタケの菌を打ち込んだり、近くの牧草地にミツバチの巣箱を設置する作業も行いました。好天に恵まれたこの日、子どもたちは久々に再会した友達やスタッフとの時間を存分に楽しみました。

ワークショップは、11月までの毎月第2土曜日に開かれ、自然体験学習や世代間交流などが行われます。



部門ごとに入念な審査が繰り返される共進会

酪農家自慢の牛が108頭 改良の成果を競い合う

第32回岩手県北ブラックアンドホワイトショウ（岩手県北ホルスタインクラブ主催）は4月16日、時折小雪がちらつく中、江川共進会場で開かれました。

共進会は、町内71頭、近隣町村37頭、合わせて108頭の酪農家自慢の牛が出品され、体型や発育の程度、乳房の成長度など改良の成果を競い合いました。

審査結果は、未經産牛の部が塩倉康美さん（陸中）、経産牛の部が川下一幸さん（五日市）の出品牛がグラウンドチャンピオンに輝きました。団体では、昨年に引き続き江川同志会が優勝しました。

すべてに精通する人に 酪農研修で9人が入所

町山地酪農研修センター入所式は4月7日、くずまき交流館プラトールで行われ、第27期生となる9人が畜産や製造など3部門で研修を開始しました。

本年度は町内から3人、町外から6人が入所。そのうち4人は継続研修です。中村哲雄町長は「探究心を持ち、自ら解決するという姿勢で仕事に臨み、自分を成長させるための1年にしてほしい」と激励しました。

研修生を代表し、函館市出身の木谷和博さん（18）は「食料生産に対する広い識見と視野を身に付け、さまざまな体験であらゆることに精通する人材になれるよう努力したい」と決意を述べました。



研修生代表で「誓いの言葉」を述べる木谷和博さん

交通事故に気を付けて 三日市で歩行者にPR

三日市でにぎわった4月13日、町交通安全協会や交通安全母の会、交通指導隊、防犯指導隊など約20人が参加し、会場を訪れた買い物客に交通事故防止や防犯対策を呼び掛けました。

一人ひとりの胸に黄色い羽根を付け、夜光反射材や交通標語入りティッシュなどを手渡ししながら、「道路を渡るときには、左右をしっかり確認しましょう」「交通事故にあわないように気を付けてください」と声を掛けていました。交通事故は、道路の横断や飛び出しから多く起きています。十分に注意しましょう。



黄色い羽根を付けながら、事故防止を呼び掛ける交通安全母の会のメンバー

8校で135人が入学式 喜びあふれる学校生活

4月6日と7日の両日、町内の小中学校8校（馬淵小なし）で入学式が行われ、135人（小学生58人、中学生77人）が新しい学校生活をスタートさせました。

吉ヶ沢小学校（佐藤晃校長、児童11人）では7日、上家萌香ちゃんと芳田愛華ちゃんの2人が足取りも軽やかに登校。入学式で名前を呼ばれると「はい」と元気いっぱい返事をし、脇目も振らず立派な小学生ぶりを披露。児童や教職員、地域の人などに歓迎され、喜びにあふれていました。全校合唱が始まると、2人は上級生の一生懸命に歌う姿に目を輝かせていました。



真新しいランドセルを背負い、帰りのあいさつをする上家萌香ちゃんと芳田愛華ちゃん



拾い集めた空き缶を整理する田子自治会の会員

集めたごみは11トン クリーン葛巻行動の日

4月16日は、クリーン葛巻行動の日（道路の部）。自治会が中心となり、早朝から町内各地でゴミ拾いが行われました。国道や町道の周辺、川沿いなどから拾い集めた空き缶などの総重量はなんと11,100*。昨年に比べて200*増えています。収集したごみには、テレビや洗濯機など家電リサイクル法で定められている品物も数台含まれています。クリーン作戦での収集量は、ここ5年間で減少傾向でしたが、人目につかない場所でのポイ捨てが多く見られます。みんなでルールを守り、環境にやさしい町づくりをしましょう。